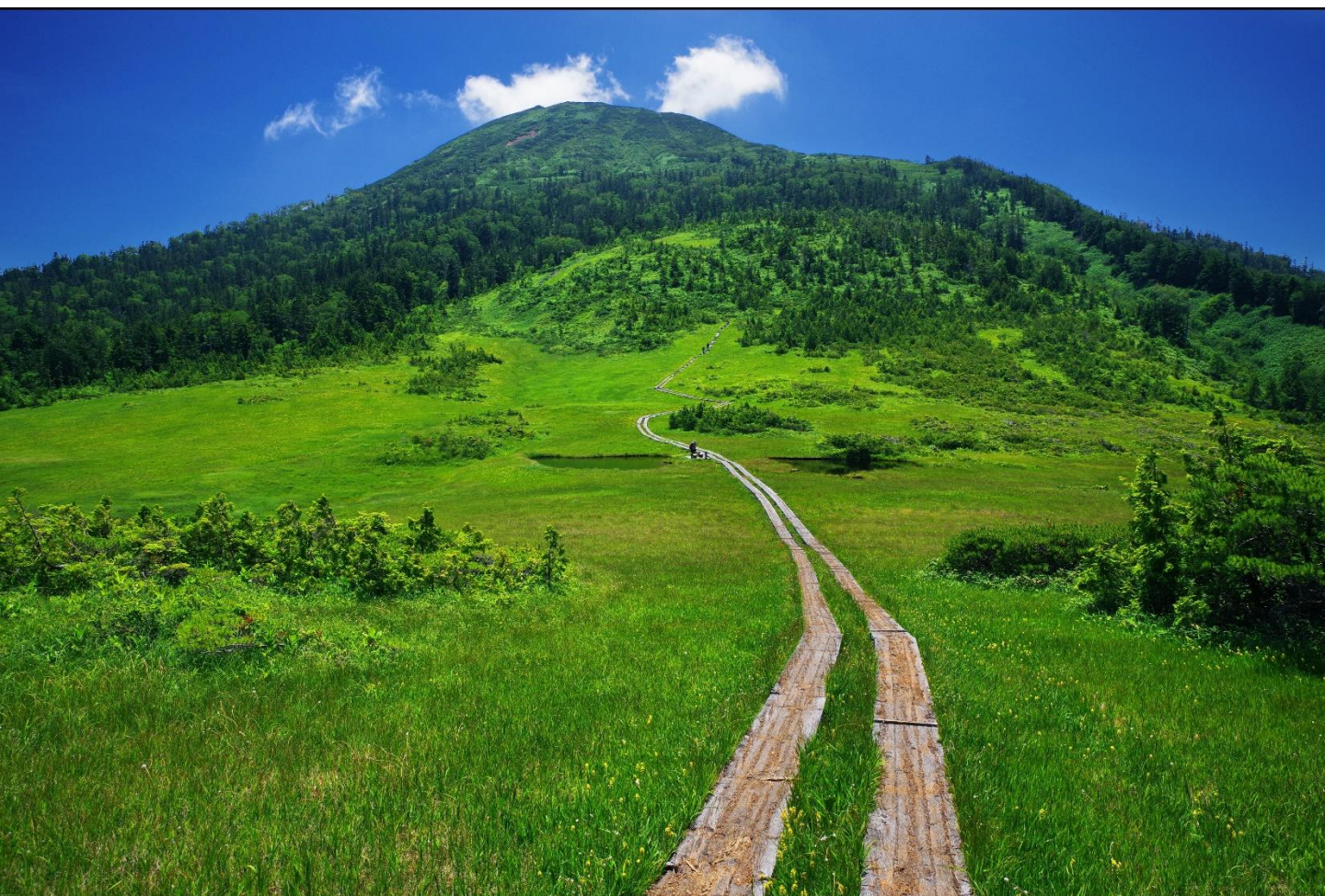


Fukushima Bank 2021

ディスクロージャー誌〔情報編〕

2020年4月1日～2021年3月31日

FUKUSHIMA BANK DISCLOSURE



ふくぎん 2021年カレンダーフォトコンテスト 優秀賞
笠原 寿一様「天空の蜂」檜枝岐村

目 次

ごあいさつ	・・・1
決算の概要	・・・2
中期経営計画	・・・4
経営理念・包括連携協定	・・・6
SBIグループと連携した取組み	・・・7
個人のお客さまへの取組み	・・・8
法人のお客さまへの取組み	・・・9
社会貢献への取組み	・・・10

会社概要

本社所在地	福島県福島市万世町2番5号
電話番号	024-525-2525（代表）
設立年月日	1922（大正11）年11月27日
資本金	186億円
従業員数	644名（うち正社員491名）
店舗数	57店舗（5出張所、2ソリューション [®] ラザ [®] 、10-ショップ [®] ラザ [®] 、1ネット支店含む）
預金残高	7,632億円
預かり資産	919億円
貸出金残高	5,984億円（私募債含む）
自己資本比率	7.51%（単体）
連結子会社	(株)ふくぎんリース&クレジット （2021年4月1日合併） (株)東北バンキングシステムズ 福活ファンド投資事業有限責任組合

役 員

取締役社長	加藤 容啓
常務取締役	佐藤 明則
取締役	佐藤 俊彦
取締役	鈴木 岳伯
社外取締役	瀬瀬 晃
社外取締役	二瓶 由美子
社外取締役	長谷川 靖
常務執行役員	宮下 恵洋
執行役員	横山 利幸
執行役員	渡辺 敦雄
執行役員	草野 真之
常勤監査役	箭内 貴志
社外監査役	新開 文雄
社外監査役	鈴木 和郎



ごあいさつ

株式会社福島銀行
取締役社長

かとう たかひろ
加藤 容啓



皆さまには、平素より福島銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

2021年3月期決算の概要や、新しい中期経営計画をディスクロージャー誌（情報編）に取りまとめましたので、ご一読くだされば幸いです。

当行は、2022年11月に創立100周年を迎えます。この節目を含む2021年4月から2024年3月までの3年間を、中期経営計画「ふくぎん 福島創生プロジェクト」としてスタートいたしました。

また、この新しい中期経営計画に併せて、金融機関を取巻く経営環境の変化に対応するため、当行が果たすべき役割・使命を明確化した新たな経営理念も策定いたしました。

中期経営計画「ふくぎん 福島創生プロジェクト」のスローガンとして、「企業活動（法人）とお客さまの生活（個人）を伴走支援し、地方創生に貢献します」「私たちが暮らす地域のよりよい環境や暮らしやすい社会づくりに尽力します」を掲げ、お客さまの生産性向上や資産形成に貢献するとともに、地域との新たな価値の創造に取り組んでまいります。

さらに、2019年11月に資本業務提携契約を締結したSBIグループとの連携を一層強化し、お客さまの課題解決や業務効率化を支援する付加価値の高い金融商品・サービスを提供するなど、従来の銀行の枠を越えた新たなビジネスモデルにも挑戦してまいります。

いまだコロナ禍の深刻な影響が継続しており、働き方や生活スタイルも大きく変わり始め、テレワークやオンライン会議などのDX化が加速しています。当行も環境変化に柔軟に対応し、これからもお客さまへのサービス向上に努めるとともに、地域金融機関として、お客さまに寄り添い、地域経済の持続的な発展のために尽力してまいります。

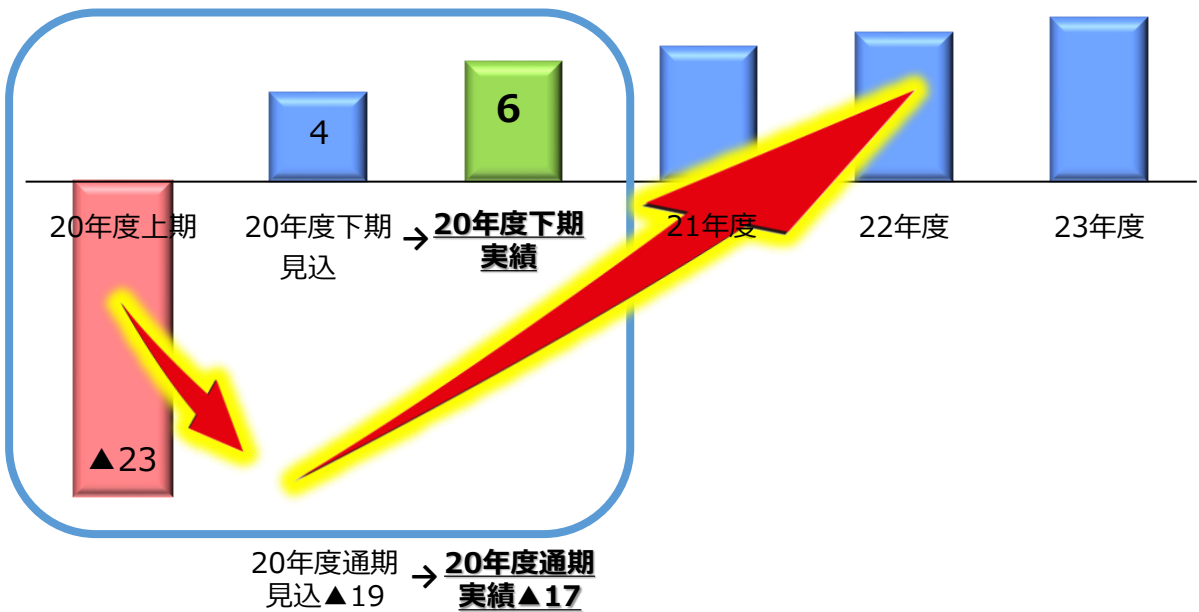
皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ふくぎんV字回復プランの概要 ≪2020年8月11日公表≫

- 今後拡大する可能性のあるリスク要因について前倒しで処理し、前向きな損失を計上。
- 2020年9月期 中間純利益▲23億円、2021年3月期 当期純利益見込▲19億円 → **実績▲17億円**
- 本業収益は、前年を上回る黒字を見込む（2020年3月期 本業収益7.2億円） → **実績 13.5億円**
- 有価証券含み損を一掃し、信用コストの備えも充実（2020年3月期 **その他有価証券評価損▲40億円**） → **実績+3.2億円の評価益**
- これにより将来に向けて安定的な収益を確保し、業績のV字回復と復配を目指す。
- お客さまの支援に全力で取り組み、地域経済の活性化・地域創生に貢献する。

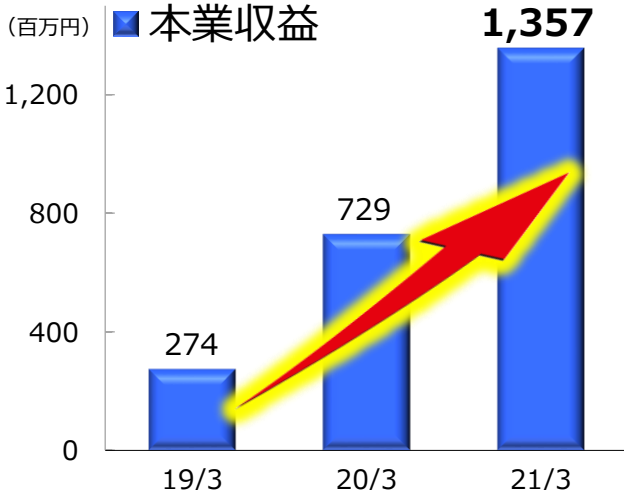
当期純利益の推移目標と達成状況

(億円)



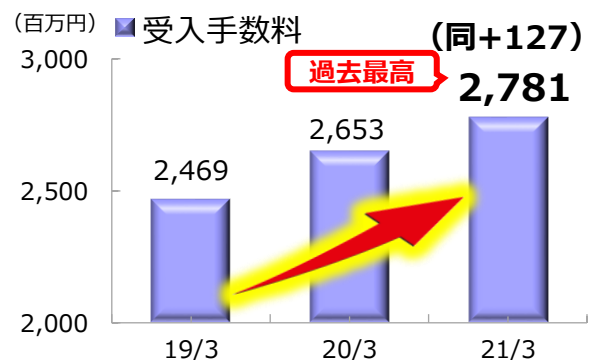
3期連続 本業収益増加

(前年度比+628)



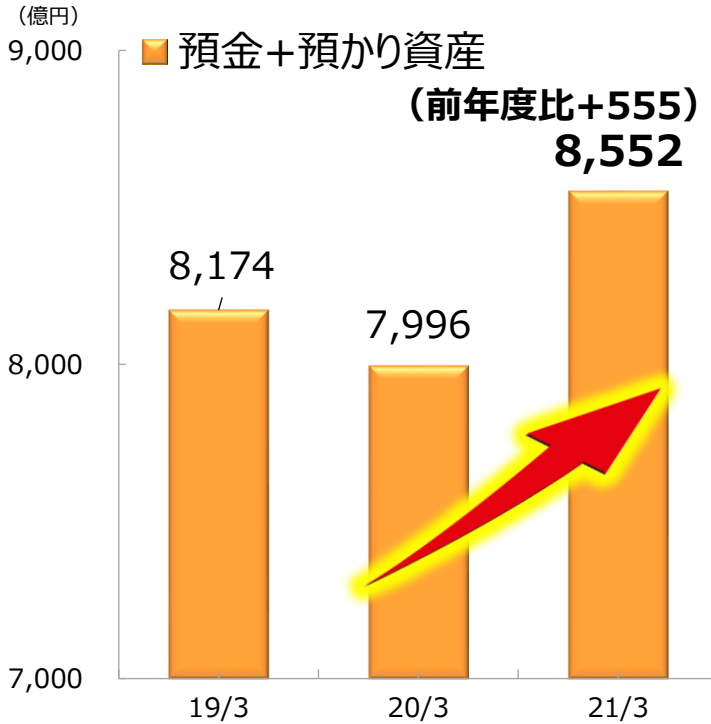
- 金融機関の本来の収益力をあらわす **本業収益**(投信解約益を除くコア業務純益)は**1,357百万円**と、**3期連続で着実に増加**。

- 受入手数料は、**過去最高**を更新。

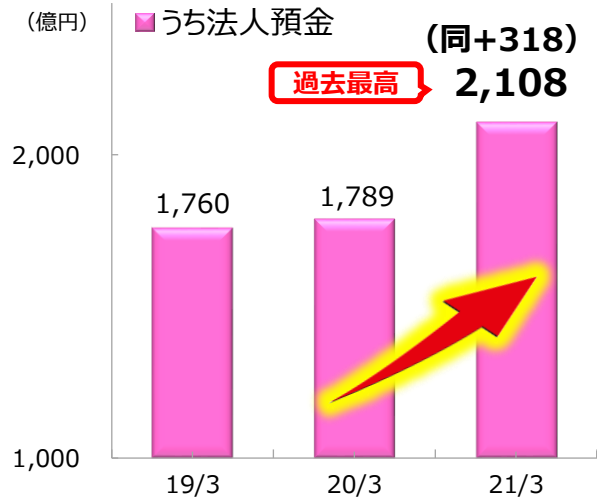


決算の概要 ②

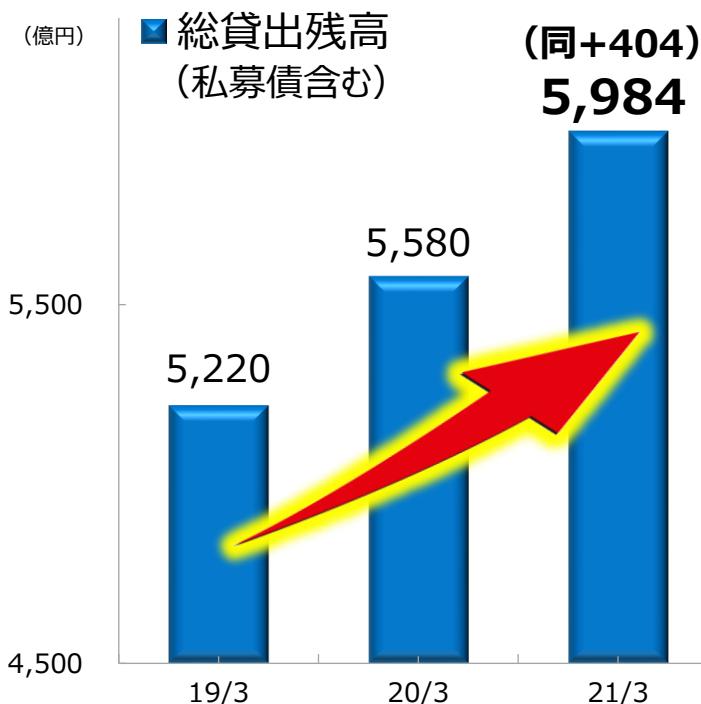
預金（NCDを含む）・預かり資産



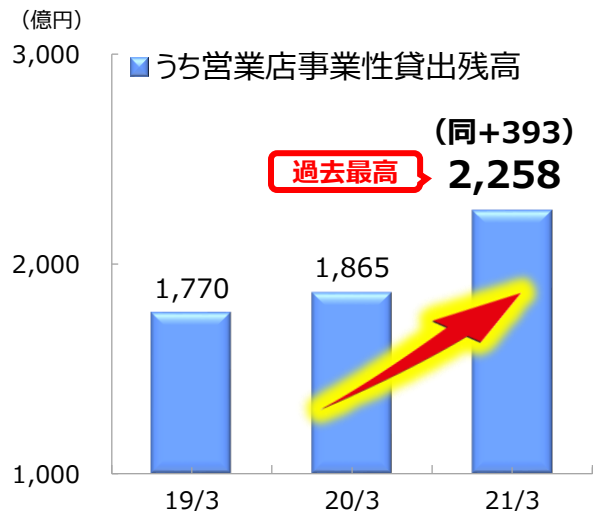
- 預金+預かり資産の残高は、**8,552億円**（前年度比+555億円）と**法人預金**を中心に増加。
- **法人預金**は、同+318億円増加し、**過去最高**を更新。



貸出（私募債含む）



- 総貸出残高は、**5,984億円**（同+404億円）と**事業性貸出**を中心に**大幅に増加**。
- **営業店事業性貸出残高**は、同+393億円と、コロナ対応融資を中心とした地元中小企業向けの資金繰り支援に積極的に対応し、**過去最高**を更新。



福島銀行は、2021年4月から2024年3月までの3年間に取組む「中期経営計画」を策定いたしました。

当行は、2022年11月に創立100周年を迎え、この節目を含む3年間で中期経営計画「ふくぎん 福島創生プロジェクト」としてスタートいたしました。

中期経営計画 「ふくぎん 福島創生プロジェクト」

～企業活動(法人)とお客さまの生活(個人)を伴走支援し、地方創生に貢献します～
～私たちが暮らす地域のよりよい環境や暮らしやすい社会づくりに尽力します～

計画期間／2021年4月1日～2024年3月31日

5つの「行動指針」を掲げ、事業活動に全力で取り組みます。

1 お客さまの本業を徹底的に伴走支援します。

2 お客さまの生活を支援し、最適な資産形成をサポートします。

3 DX化の推進により、お客さまに新たなサービスを提供するとともに、業務の効率化・高度化、経費の削減を推進します。

4 ESG・SDGsに資する活動を実施し、よりよい環境と暮らしやすい社会づくりに貢献します。

5 経営基盤(経営資源の配置・人材育成・働きがいのある職場)を再構築し、収益力の強化を図ります。

主要施策

1 本業支援 コンサルティング業務

経営改善計画書を共に策定するなど、お客さまの課題解決や本業支援に向け伴走支援し、コンサルティング機能を強化します。

- 営業店と本部が一体となって、事業計画書または経営改善計画書をお客さまと共に策定します。
- SBIなどと連携し、お客さまの課題解決に資する商品・サービスを提供します。

事業承継・M&A

販路拡大・ビジネスマッチング

人材紹介

業務効率化・生産性向上、DX化の推進

2 個人取りまとめ融資

多重債務に苦しみお客さまや廃業を希望されるお客さまとの対話を重ね、債務を取りまとめるなど生活再建を応援します。

- 専担者4名体制で県内4地区に本部担当者を配置します。
- お客さまとの対話を重ね、お客さまが直面している課題に正面から共に向き合い、最適なプランを提案します。
- 後継者不在、コロナ禍などの影響により、ご融資の返済に不安をお持ちのお客さまに寄り添い、伴走支援を行います。

3 DX化の推進

お客さま利便性の向上に資する次期システムの更改、ビッグデータの活用による営業の高度化、PC1人1台化による業務改革・業務効率化、働き方改革のためにDX化を推進します。

- 消費性ローンWeb完結化など、お客さま利便性の向上を図ります。
- DX委員会内に協議内容ごと組織横断的に3グループを設置し、DX化を強力に推進します。

Aグループ	Bグループ	Cグループ
次期システムの更改、サブシステム、API連携などを推進	ビッグデータの活用による営業の高度化やWebを利用した提案営業の強化などを推進	PC1人1台化によるペーパーレス化、テレワークによる働き方改革などを推進

4 人材育成

本業支援に強い社員、事業承継・M&Aなど専門分野の知識を持つ社員の育成を図ります。

● 事業性融資研修プログラムの実施

主に入行5年目までの若手社員を対象とし、事業性評価に基づいたお客さまの課題解決、資金繰り支援、本業収益の改善を伴走支援できる人材の育成を図ります。

● 中堅社員、新任支店長(課長)向け研修の実施

中堅社員向け本業支援研修、新任支店長・課長向け店務運営等の研修を強化します。

● 傾聴力と対話力を高める研修を実施

お客さまや社員相互のコミュニケーションを豊かにする研修を実施します。

● 専門分野の知識が豊富な社員の育成

SBIグループとの連携により、事業承継・M&A部門や有価証券運用部門に若手・中堅社員を派遣し、専門分野の知識が豊富な人材の育成を図ります。

当行は、新しい中期経営計画のスタートにあわせて、当行が目指す新たな経営理念を制定いたしました。

【 経営理念 】

福島のために

福島銀行は、地元企業の本業支援やお客さまの資産形成のお手伝いを通して、福島の発展に貢献します。

お客さまのために

福島銀行は、お客さまが直面している課題に正面から共に向き合い、常にお客さまの目線で、高い倫理観を持って行動します。

そして未来を育むために

福島銀行は、お客さまの幸せを将来にわたり追求できる人材の育成に尽力し、生き甲斐と幸福感をもって働ける職場づくりを目指します。

SBIグループと連携した取組み

SBIグループとの連携により、2020年度の手数料収入において1億円超の増加に貢献いたしました。

【 SBIグループとの主な業務提携一覧 】

個人	資産形成	● 共同店舗 「福島銀行SBIマネープラザ郡山」 を新設	ネット証券最大手であるSBI証券の金融商品・サービスを、対面による質の高いアドバイスと共に利用可能
	資産形成	● SBI証券との リアルタイム入金サービスの提供	当行普通預金からSBI証券の証券口座に手数料無料で資金振替でき、スムーズで便利な証券取引が利用可能
	利便性向上	● バンキングアプリの導入	アプリでの口座開設（来店不要、印鑑不要、通帳レス）や、家計簿アプリ「一生通帳by Moneytree」を提供
	利便性向上	● 住信SBIネット銀行の 『ミスター住宅ローンREAL』および 『フラット35』の取扱開始	当行ホームページから、住信SBIネット銀行の住宅ローンの各種申込手続等がWEB上で利用可能
個人・法人	補償の充実 低コスト	● SBI損保の 「自動車保険」「火災保険」 の取扱開始	WEBで完結する「自動車保険」や、住宅ローンのお客さまが必要な補償を自由を選べる「火災保険」を提供
	補償の充実	● 住宅ローンおよび各種ローンに 団体信用生命保険を付保	住宅ローンのほか、事業者、医療従事者および個人向けの各種ローンに団信を付保し、万が一の時に備えた安心を提供
法人	業務効率化	● クラウド型ワークフローシステム 「承認Time」「経費BankⅡ」 の提供	社内のあらゆる書類の申請、承認、回覧、保管を電子承認フローに載せられるクラウド型ワークフローシステムを提供
	利便性向上	● SBIレミットの海外送金サービスの提供	地域企業が抱える外国人労働者のために、簡単に利便性の高い海外送金サービスを提供
	人材支援	● 理系人材の採用支援サービスの提供	地域企業が必要とする技術職・研究職などを、理系人材マッチングサービスにより採用を支援

個人のお客さまへの取組み

障がい者スポーツ支援 《SDGsの取組み》

障がい者スポーツを応援するための「障がい者スポーツ応援寄付型定期預金『エール2』」を2020年11月から取扱開始いたしました。

2021年9月末の預金残高の0.001%相当額（上限30万円）を、（公財）福島県障がい者スポーツ協会へ寄付いたします。



午前中「窓口営業」、午後「お客さま訪問活動」の実施店舗

午前中は「窓口営業」を行ったのち、午後からは同じ窓口行員が「お客さまへの訪問活動」を行います。

同じ行員が対応することで、お客さまにとって、これまで以上に相談しやすく、スピーディーな対応が可能となります。

地域特化店

毎日営業 ……**顧客利便性**の確保
来店客の減少 ……積極的な**お客さまへの訪問**
窓口・訪問 ……**同じ行員が対応**することで
相談しやすい体制

少数精鋭の行員配置

各種キャンペーンの実施、お客さまの利便性や安全性の施策

抽選権付定期預金を取扱い「ふくしま逸品モール」（県内地場産品を取扱う地元企業の販路拡大を目的に当行HPで紹介）から、選りすぐりの逸品をプレゼントしました。

来店不要でご契約可能なマイカーローン（非対面Web完結型）の取扱開始や、「印鑑レス」取引の対象を拡大するなど、お客さまの利便性向上につながる取組みを実施いたしました。

多発している「なりすまし詐欺」から、ご高齢のお客さまの被害を防止するため、キャッシュカードの1日当りのATM支払限度額を引下げするなど、各種施策を実施いたしました。

各種寄付型私募債の取扱い 《SDGsの取組み》

東日本大震災や令和元年東日本台風被害、さらには新型コロナウイルス感染症の拡大等の危機管理にあたり、地域金融機関として、お客さまと共にサポートを図るため、県・市町村等の自治体や学校等に、私募債発行手数料の一部を寄付する取組みを行っています。（寄付型私募債受託額累計62件、54億4千万円）



「ふくぎん子ども絆ローン」の取扱い 《SDGsの取組み》

子育て支援等に寄付する「ふくぎん子ども絆ローン」**Season1**（2018年11月～）を取扱開始。（ふくしまこども食堂ネットワークへ、総額300万円を寄付）

ご好評につき、**Season2**（2019年5月～）を実施。（子育て支援施設に、マスク1万枚を寄付）

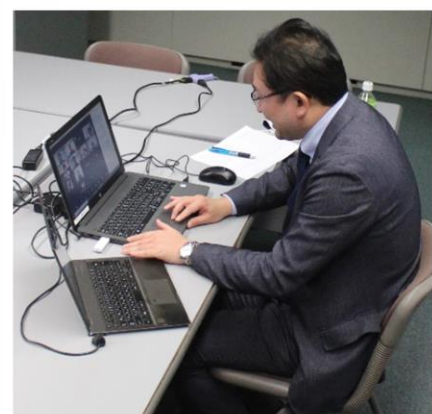
さらに、**Season3**（2020年1月～）の取扱いを開始しており、この取組みを継続的にいき、当商品の提供を通して、お客さまと共に社会への貢献や地域との共生に努めてまいります。



創業支援に向けた取組み

当行は、認定連携創業支援事業者として、福島市、郡山市を始めとする県内15市町から認定を受け、創業支援セミナー等を開催し、のべ166名が参加されています。

2020年度は、コロナ禍のため、県内4地区の受講者とWeb会議システムZoomを使用した創業支援セミナーを開催いたしました。



公益信託福島銀行 ふるさと自然環境基金（1992年度～）

自然環境保護を図り、自然と人間の調和のとれた社会づくりを目的に、29回目の助成金を贈呈いたしました。

これまでの助成先は77先、助成額は累計で1,782万円に達しました。



NPO法人小野自然倶楽部

ふくぎん みんなのサポート市民活動助成金（2012年度～）

当行の90周年記念事業として創設し、高齢者を守る活動や子どもの教育を支える活動など、未来づくりに自発的に取組む活動を支援・促進し、あたにかい地域社会の実現を目指しております。

今回で9回目、これまでの助成先は38先、助成額は累計で380万円になりました。



第9回 障がい者施設製品大展示即売会

障がいをお持ちの方々の自立をサポートすることを目的に、例年、県内の授産施設約90先が参加・出展され、本店地下大ホールにて大展示即売会を開催してきました。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「カタログ販売」（10/8～11/13）で実施し、大変多くのお客さま・お取引先にご購入いただき、総額436万円と過去最高売上額となり、授産施設事業の活動を支援することができました。



集団献血

集団献血を継続的に実施しており、30年以上の活動の協力に対して、厚生労働大臣感謝状が授与されました。
(2020年度献血実施者 68人)



行員ボランティア活動

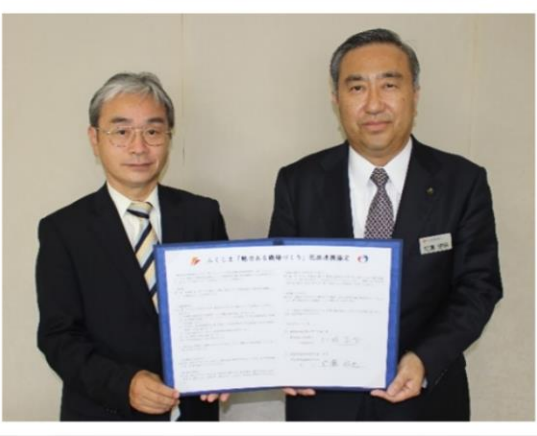


地域社会の一員として、地域イベントのお手伝いや商店街・駅前等の清掃活動、猪苗代湖の水草回収活動、海岸の清掃活動などに幅広く参加し、地域に根差した社会貢献活動を、継続的に行っております。(2020年度ボランティア活動実績 のべ1,077人)

「ふくしま『魅力ある職場づくり』包括連携協定」を締結

当行と福島労働局は、2020年10月1日、「ふくしま『魅力ある職場づくり』包括連携協定」を締結し、地域金融機関として働き方改革の推進、および労働生産性向上の加速化に貢献してまいります。

【協定の目的】 当行と福島労働局が相互の連携強化を図ることにより、福島県内の魅力ある職場づくりに資することを目的とします。





総合企画部

福島県福島市万世町2番5号

TEL : 024-525-2525 (代)

<https://www.fukushimabank.co.jp/>